

校長室通信

津谷中学校 校長 今野勝美

令和2年8月21日（金）

以前、校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを知っておりましたので、私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

今回は **新しい生活様式** についてです。

with コロナ

新型コロナウイルス感染症については、いまだ不明な点が多く、有効性が確認されたワクチンも存在しないため、私たちは、長期間、この新たな感染症とともに社会で生きていかなければなりません。

そのため、感染リスクをゼロにすることはできないという事実を前提として、子どもたちの健やかな学びを保障していくために、学校においても「3つの密」を徹底的に避ける「新しい生活様式」を導入し、感染のリスクを可能な限り低減しつつ、教育活動を行っていく必要があります。



※そのため学校では、現在このような取組を行っています。

- 手洗いは、流水と石けんで、こまめに、丁寧に（30秒程度）行います。
- マスクは、児童生徒及び教職員ともに、常時着用します。
- ※熱中症の心配があるときや体育の授業等では外す場合もあります。
- 換気を、定期的に行います。※教室内の温度は適切に管理します。
- 消毒は、1日1回以上、手でよく触れる場所や教具を消毒液で清拭します。
- 身体的距離（座席配置）を、可能な限り1～2メートル確保します。
- 発熱などの風邪症状がある場合は、自宅で休養するようお願いします。

※その場合、「校長が出席しなくてもよいと認めた日」として取り扱います。

[万が一新型コロナウイルスに感染した場合]

※新型コロナウイルス感染症に関する情報提供についてお願いします。

集団生活の場である学校においては、最大限の感染予防対策が必要です。

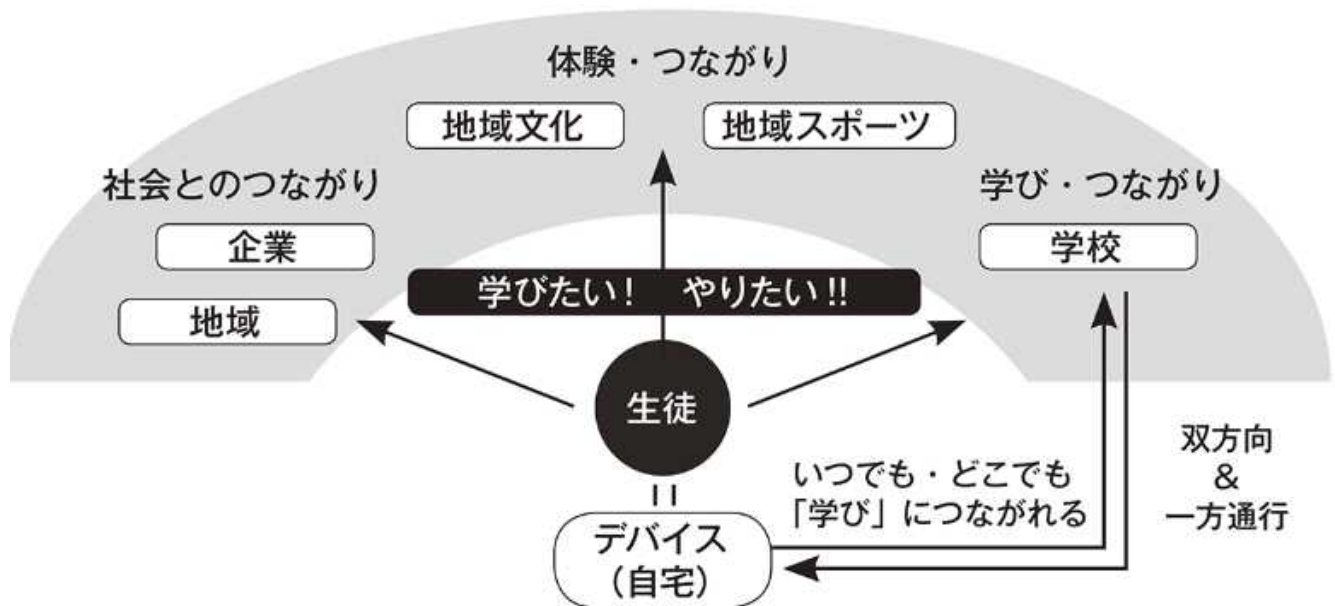
つきましては、万が一、お子様等が感染した時、家族に濃厚接触者が出たときなどの場合は、速やかに情報提供にご協力願います。また、保健所が、学校を通して疫学調査を実施する場合には、調査にご協力いただきますよう、重ねてお願いいたします。

なお、ご提供いただいた情報については、個人情報保護の観点から取扱いに万全を期してまいります。

after コロナ

コロナ禍が一時的に過ぎ去ったとしてもコロナが無くなったわけではないことから、いかなる場合においても、学びの機会だけは疎かにできません。

そこで、ICTによる授業が最適だと判断すれば、ICTスキルの向上を図る必要があります。英語のスピーチやダンス・レポートなどのパフォーマンス課題を出す場合は、あらかじめ到達の評価基準を示し、児童生徒の学びと向き合うことができる方法を示した形で個々の取組を促します。



図：“afterコロナ（3～4年後）”の学びのイメージ

「物理的に教室に入らないと成立しない学び」から「適材適所で分散された個別最適な学び」へのシフトを加速する必要があります。リアルな学校だけでなく、インターネットを活用することで、学校と児童生徒は「いつでも、どこでも」つながります。また実社会で、ボランティアに参加したり、職業体験をしたり、地域の文化資源に触れたり、スポーツクラブに参加していくこともあると思います。

単に知識が多いということには、かつてのような意味がありません。知識だけであれば、スマホで瞬時に検索可能です。計算はソフトが瞬時に解を出します。もちろん、知識や技能の習得に意味がないということではありません。

「学び」が「主体的・対話的で深い学び」であるとき、それは、受験が済んだら知の剥落はくらくが起こる……などということではなく、学べば学ぶほど知的欲求が駆り立てられるものではないかと考えます。

さらに言えば、大人＝成熟／子ども＝未熟といった上下関係ではなく、一人の人間として、一人の自立した社会の一員として対等であるということだと思います。

*参考：『総合教育技術』2020年7・8月号より